

校長室だより



真岡東中 校長室だより

No. 79

2018/12/25/Tue

2学期終業式 クリスマス

クリスマスの日が定まる 386年

物理学者ニュートン誕生 1642年

最初のクリスマスパーティ開かれる1874年

喜劇王チャップリン、88歳で没1977年

チーム東…生徒・家庭・教職員へ向けての校長通信

高め合い、磨き合い、感動し合い、「愛」いっぱいの真岡東中に！

真岡東中学校HPでもご覧いただくことができます

自分を見つめ直し、生きるべき道を考える冬休みに！

自分たちで創り上げる楽しさを味わった2学期！

健康に留意し良い新年をお迎えください！

第2学期終業式にあたり、校長式辞での主な内容を紹介いたします。

速い・遅い・上手い・下手・順位は関係ない！一生懸命全力で取り組む心意気を見せるから感動する！三大行事を通して、君たちが大きく成長した中身を確認しよう。

学年によって違うが、**自分たちで創り上げる楽しさを味わい**

感動する体験、仲間との絆の強さができたのではないのでしょうか。

2学期の成長

1年生…多くの人から叱咤激励され、先輩を真似ながらも自ら行動しようと努め、積極的に活動できた。よく話し合い、作戦を練って練習した運動会。先輩と一緒に練習試合に臨んだ合唱。新人戦やコンクールで先輩に引けを取らない活躍。勉強も頑張って学力が向上！やらされるのではなく自ら取り組もうとした頑張り。プロの中学生に近付いた1年生！

2年生…どの分野でも昨年の経験を生かした。頼りになる3年生についていくうちに指導力がつき新人戦やコンクールで活躍。感動の名場面を数多く演出した運動会。レベルをグンと上げた素晴らしい合唱。事業所から高い評価を得て絶賛されたマイ・チャレンジ。進路を意識し本気で取り組んだ勉強。自信とたくましさを増してきた2年生！

3年生…平成最後の運動会・ひがし野祭を最高の思い出にとその実力を発揮した。3年生としての自信・プライド・心意気を十分に感じた運動会。さすが3年生と会場を唸らせ感動させた合唱。感謝の気持ちを素直に語ったクロージング・スピーチ。運動不足の中、懸命に走った駅フェス。本気になってきた受験勉強。やる気と頼もしさが身に付いてきた3年生！

U=UP! UP! ・H=Humanityを追求・そのための**E=Effort**努力をし、君たちの大きな成長が学校を支えている。これらを次の成長へのエネルギーに各学年とも変えてほしい。

充実した冬休み・新年へ向けて

1年生…来年迎える新入生の模範となれるよう心も身体も鍛え健康であってほしい！先輩・上級生と言われて少し大人になった気分の自分を想像して新年の抱負も立ててみよう！

2年生…自分を見つめ直し、立志式へ向けて新年の抱負を立ててみよう！学校の顔である3年生=最上級生になった自分が活躍している姿を想像してみよう！自分を変えよう！

3年生…進路実現に向け最後の冬休み。今までの努力を十分発揮し入試に臨んでほしい。新年抱負を立て、高校生活が充実して楽しんでいる自分を想像しよう！新生活を夢見よう！

しかし、一人ひとりの課題は別問題…通知表をよく読み、冬休みを充実したものにしてほしい！年の終わり**大晦日**、年の始まり**元日**も楽しんでほしい。「**一年の計は元旦にあり三年間の計画は年の初めの元日の朝に立てるべき、物事にとりかかる時は始めにしっかりとした計画をもって当たれ**」と言われる。元旦は元日の朝のこと。各々が自分の成果と課題・反省を明らかにし、自分を見つめ直して生き方を考える=生きるべき道を考えてほしい！

有意義な冬休みにしましょう。どうぞ良い年を迎えてください。



自分を見つめ進路や生き方を考える…

冬休みにこの1冊…名著から人生や進路を考えよう

TVやゲームを少し止めて…読書を充実させよう！

3年生にとっては、「受験勉強で忙しいのに読書？」なんて思うかもしれません。「お正月は見たいTVが多いから」とか「ゲームもやりたい」という声も聞こえてきそうです。また、年末年始は何かと忙しいのも事実です。

でも…受験生だからこそ、冬休みだからこそ、名著に出合って進路や生き方について考えることもあります。

外は寒いので少し外出を控えて…ということ、家で過ごす時間が長くなります。これをうまく利用すれば時間はあります。



以前に、講演会の講師の方が、「自分の人生を変えた本」として、宮沢賢治と有島武郎の本を取り上げ、『生まれ出づる悩み』を紹介したことがありました。

この『生まれ出づる悩み』…私(=平野)自身も思春期の真っ只中にいた頃、すごく感動し私の好きな本の1冊になりました。人生について考える契機になった本でもあります。その内容を紹介します。



『生まれ出づる悩み』 (有島武郎著)

— 名著から人生を考える —

「君よ！！」…9章では、このようにいつも若者の心に語りかけ、励まし続けたこの小説。一読すると、心に深く残る作品になると思います。この小説は、1918年(大正7年)に発表された作品ですが、現代においても一筋の光明を求めて好きな道を極めたいと願う若者の心の奥深くに響く、輝かしい作品であると思います。

さて、この小説の中の「君」…純粹で寡黙なこの「君」の生きる希望は“画が描きたい”“北海道の大自然を描き続けたい”ということ。しかし、貧しいために漁師として生きなければならず、厳しい重労働と不屈の芸術を追求する心の葛藤の中で這いまわりながらも、たくましく生き抜く若者への「人間愛」をあたたかい表現で描いています。

今、中学生(=思春期)であるみんながこの小説を読んだら、どのように受けとめるでしょうか？きっと、何か、生きる力のようなものをわき上がらせる一助になるものと信じています。

中学生ぐらいの年代の中には将来、音楽関係やデザイン関係の世界で仕事をしたい！または、この小説の若者のように美術の世界で生きたいと思っている者もいることでしょう。現代社会においても昔と同様、よき理解者に支えられて不屈の精神は芽を伸ばし、育っていくものではないでしょうか。

私が特に好きな最後の文章を紹介します。

『本当に地球は生きている。生きて呼吸している。この地球の生まんとする悩み、この地球の胸の中に隠れて生まれ出ようとするものの悩み——それを僕はしみじみと君によって感じるができる。それは湧き出て躍り上がる強い力の感じをもって僕を涙ぐませる。』

君よ！今は東京の冬も過ぎて、梅が咲き椿が咲くようになった。太陽の生み出す慈愛の光を、地面は胸を張りひろげて吸い込んでいる。春が来るのだ。

君よ。春が来るのだ。冬の後には春が来るのだ。君の上にも確かに、正しく、力強く、永久の春がほほえめよかし…僕はただそう心から祈る。』